



2022年8月

- [今回のリリースでの新機能 \(1 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(1 ページ\)](#)
- [不具合 \(2 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

ロケーション階層

Cisco Smart ワークスペースのユースケースをサポートするために、次の新機能がロケーション階層に導入されました。

次のロケーション階層のバックグラウンド同期がサポートされるようになりました。

- Meraki ネットワークまたはフロアロケーションでの Meraki MT センサーデバイスの同期。
- Cisco Webex デバイスと会議室およびデスクとの同期。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces パートナーダッシュボード

Cisco Spaces パートナーダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

[Events] セクションに NETWORK_STATUS_UPDATE という新しいイベントが追加されました。このイベントは、ステータス、最終検知日、タイプ、コネクタ名、IP アドレスなどのネットワーク情報を提供します。

Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

OpenRoaming SDK プロファイル

Cisco Spaces は、[Menu] (☰) [Integrations] > [Cisco Spaces SDK] > [Configure Profile] ウィンドウを使用した OpenRoaming Wi-Fi プロファイルの構成をサポートするようになりました。[Configure Profile] ウィンドウで指定した値に基づいて、特定のテナントの顧客固有のプロファイルを作成できます。

この機能強化の前は、プロファイルはバックエンドで手動で更新されていました。

データ エクスポート

データエクスポート設定で、次の追加のデータエクスポートタイプがサポートされるようになりました。

- キャプティブポータル：顧客獲得
- Right Now：人数（カメラ）



(注) Cisco Spaces ダッシュボード SEE ライセンスの顧客アカウントの場合、キャプティブポータル、エンゲージメントおよびロケーションペルソナなどのデータエクスポートタイプはエクスポートできません。ACTライセンスの顧客アカウントの場合、すべてのデータタイプをエクスポートできます。

ロケーション階層

バックグラウンド同期プロセス中に、構成テンプレートネットワークの Meraki スキャン API 通知 URL が自動的に更新されます。

Firehose API

Firehose API の Wi-Fi イベント用に新しいフィールド `openRoamingUserId` が追加されました。このフィールドには、SDK によってオンボーディングされた OpenRoaming ユーザーの ID が含まれます。それ以外の場合、このフィールドの値は `nil` です。

マップサービス

マップサービス API のパフォーマンスが強化され、インポートの履歴とステータスを取得できるようになりました。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子 (ID) が割り当てられます。識別子は `CSCxxNNNNN` というパターンで、`x` は任意の文字 (`a ~ z`)、`N` は任意の数字 (`0 ~ 9`) です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center (TAC) エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。

- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

Cisco Spaces のこのリリースでは、未解決または解決済みの不具合はありません。

不具合

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。